新しい学びをデザインするICT活用

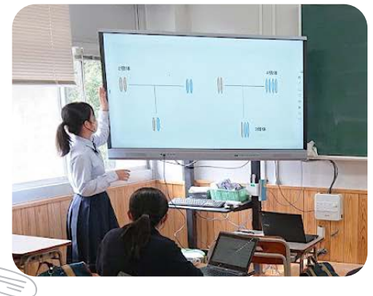
Utilization of information and communication technology for the future of children and students.

福岡県
福岡県教育庁様

Case 4

福岡県立高等学校

次代を担う「人財」育成のため 県立高校全体で ICT活用を推進



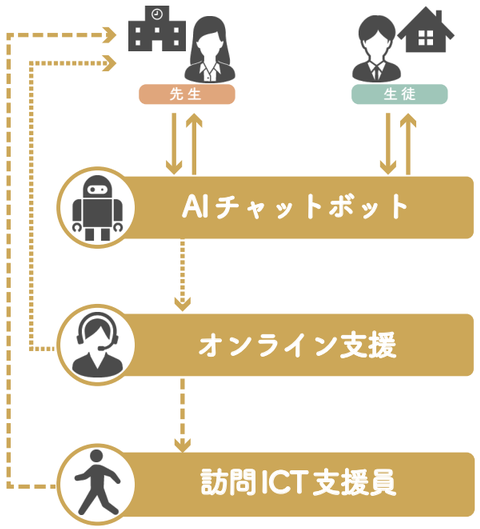
県立高等学校でのICT支援員の活用

国のGIGAスクール構想により、小中学校での1人1台環境を活用した学習が新たな局面を迎える中、高等学校での環境整備も進んでいます。文部科学省の調査では、全ての都道府県において、令和4年度中に、高校1年生の1人1台環境整備を完了、令和6年度までに、全学年の1人1台環境整備を完了予定としています。福岡県では、令和4年度中に県立高校全生徒の1人1台環境を整備しました。ICT支援員を計画的に配置し、県全体としてのICT活用推進に取り組む、福岡県の取り組みをご紹介します。

GIGA運営支援センターの取り組み

福岡県では、GIGA運営支援センターの取り組みの一環として、AIチャットボット、オンライン支援、オンライン研修を実施しています。ICT支援員の訪問がない日でも、24時間365日受付できる体制があることで、組織的に福岡県全体をサポートし、オンライン支援や訪問支援との連携により、より効果的な支援が可能になりました。

AIチャットボット・オンライン支援



AIチャットボットは、返答内容を日々アップデート。人的支援が必要な時は、オンライン支援、訪問ICT支援と連携し、忙しい先生が「聞きたい時に聞ける」支援を提供。

オンライン研修

経験豊富な講師によるオンライン研修

研修ラインナップ

- ICT支援員スキルアップ研修
- Google Classroom 基本操作・活用研修
- GoogleForms、Jamboard 基本操作研修
- 情報モラル・セキュリティ研修

福岡県の教育に携わるICT支援員や教職員を対象にした研修を、全14回実施。必要な人に必要な研修を届け、福岡県全体のICT活用能力をアップデート。

富士電機ITソリューション株式会社だからこそできること

設計・導入から運用保守まで トータルでサポート

設計、導入、運用、保守までトータルでサポート可能なため、継続的な運用アドバイスや支援がスムーズに行えます。

機器・ソフトにとらわれない 柔軟な導入・支援が可能

お客様のイメージする未来のニーズに合わせて最適な機器・ソフトの柔軟なご提案や支援が可能です。

教育委員会様と連携し 先生方の活用を支援

学校での支援内容やヒアリング内容はフィードバックを行い、自治体様全体での活用を推進します。

営業	SE	CE	スクールアシスタント	ヘルプデスク
設計・導入・運用サポート	ソフトウェア・ネットワーク設定等　サポート	ハードウェアサポート	学校現場における運用支援 ICT支援管理・フォロー	学校からの連絡を一括して受付 お問合せ窓口

弊社の強み トータルサポート

ハードの調達、機器導入・システム構築・運用支援まで一括した導入・サポートが可能です！

富士電機ITソリューション株式会社
〒101-0021　東京都千代田区外神田6-15-12　TEL（03）5817-5751
https://www.fujielectric.co.jp/fsl/

※記載内容は、2023年3月の仕様です。製品改良などにより事例配布時期と異なる場合がありますのでご了承ください。※記載内容についてのお問合せは、上記にご連絡ください。（管理番号：2022001）

写真提供元：福岡県立八幡高等学校・福岡県立ひびき高等学校

©Fuji Electric IT Solutions Co., Ltd.

Interview

次代を担う「人財」育成のため 県立高校全体で ICT活用を推進

令和４年４月に「福岡県学校教育ICT活用推進方針」を策定し、同年12月までに全県立学校の１人１台端末の整備を完了した福岡県教育庁様。弊社では、令和３年度よりICT支援員を派遣し、福岡県立高校のICT活用推進をご支援してきました。数学の教員として学校現場でICT活用を推進していた経験を持つ酒井指導主事、事務方としてICT活用推進に携わってきた橋本主任主事に、お話をお伺いしました。

福岡県 教育庁 教育振興部
高校教育課 ICT教育推進室
指導主事 酒井 一馬 氏

福岡県 教育庁 教育振興部
高校教育課 ICT教育推進室
主任主事 橋本 剛志 氏

これまでのICT環境整備について教えてください。

酒井氏

県立高校は令和３年度までに**全普通教室の大型提示装置の整備、校内ネットワーク整備を完了**しました。既に導入済みの端末やBYOD端末の活用も進めながら、令和４年度に、**１人１台のChromebookを整備完了**しました。環境が整い授業での活用が増えていけば、授業の形も変わっていくと感じています。また、「福岡県学校教育ICT活用推進方針」を定め、県立学校全体として共通認識を持ち、進み始めたところです。

県立高校全体として目標を定められたのですね。

橋本氏

高校教育は、生徒が社会に出て行く手前にあります。大学への進学、就職など、生徒により、進む道は異なりますが、**どの学校、どの教員でも生徒に対して指導ができるようにするために**、生徒の新しい学びの姿や教員のICT活用指導力の指標を、活用推進方針で明確に定めました。

どのような思いでICT活用推進を進められているのでしょうか。

「社会全体が変わっているのに、学校だけが変わっていない」という事実を目の当たりにしたとき、学校教育は変わっていかなければならないと、私自身が強く感じました。ICTの活用は目的ではないですが、教員が、**ICTを活用する場面を増やさないと、授業デザインの選択肢が生まれない**ですよね。土台として、教員が基本的な活用ができるようICT支援員さんにも協力をいただきながら進めています。

令和６年度には「時間や空間の縛りに捉われず、生徒が主体的に学ぶ姿」の実現を目標としています。**これまでの教育のいいところは残しながら、ICTとのかけ合わせ**により、さらにより良い教育の推進を進めていきたいと思っています。

ICT支援員はどのような役割を担っていますか。

ICT支援員さんには「教員のICT活用指導力」の目標達成に向けて、各学校の教育の情報化推進主任と連携していただきながら全体研修を実施してもらっています。また、各学校のニーズに合わせて、空き時間で参加できるミニ研修の対応など、**苦手な先生に寄り添った支援は大変心強い**です。ICT機器の準備や検証なども、教員では十分に時間が取れなかったり、詳しい先生に負担が偏ることもありますが、ICT支援員さんのおかげで、**先生方の負担軽減に繋がっている**と感じています。

ICT支援管理者の小笠原さんからは、各学校の活用状況などの資料を提供していただき、各学校の様子を丁寧に教えていただいています。私自身は学校を訪問する機会が多く取れないため、写真などで具体的な活用の様子を知ることができて助かっています。

最後に、今後のビジョンをお聞かせください。

高校は、卒業後に出ていく分野に広がりがありますが、**ICT活用という点では、県教育委員会がリードして進める**ことで、「次代を担う『人財』の育成」という共通認識を持ちながら、各学校の特色を生かした教育活動を進められると考えています。ICT活用の精度をあげていきながら、次を見据えた体制を整えていきたいです。

令和５年度は１人１台端末を全生徒が活用するフェーズに入ります。活用開始後は混乱、試行錯誤の時期があるのが当然です。ゆくゆくは、**組織的に各学校の活用を高い水準で支援できる体制**が理想だと思っています。富士電機ITソリューションから提案してもらったAIチャットボットもそのような体制の一つとなると考えています。新しい技術も取り入れながら、学校現場の自走を支えていきたいです。

福岡県 Fukuoka Prefecture

九州の東北端に位置し、九州と本州を結ぶ玄関口。福岡市、北九州市の２つの政令指定都市を持ち、九州最大の人口を誇る。令和４年度に、全県立学校の生徒を対象とした１人１台のChromebookを整備完了。「福岡県学校教育ICT活用推進方針」を公開し「次代を担う『人財』育成」のため、県全体でのICT活用推進に取り組んでいる。

SAMR（セイマー）モデル※1を尺度とした 福岡県立高校のICT活用推進のステップ

令和４年度 2022年度 → 令和５年度 2023年度 → 令和６年度 2024年度

全生徒への１人１台端末整備完了
ICT支援員の配置（４校に１人）

生徒がICTを授業で活用することを日常の姿に

・端末・インターネットを介して、意見共有
　情報交換などを通じ生徒同士の学び合いを促進
・授業以外の時間でもICTを活用した学びを深化

時間や空間の縛りに捉われず
生徒が主体的に学ぶ姿を実現

S Substitution 代替 → A Augmentation 増強 → M Modification 変容 → R Redefinition 再定義

※1 SAMRモデルとは、ルーベン・プエンテデューラ博士が考案したモデルで、学校現場のICT活用レベルを示すもの。ICTが授業にどのような影響を与えるかを示す尺度。

福岡県立ひびき高等学校

ICT支援員のおかげで 安心してチャレンジできる。

音楽の実技テストでは、演奏を各自撮影して提出することで、一人ずつ実施していた時間を短縮。現在はGoogle Classroom内で評価基準となるルーブリック※2を提示し課題の配付と組み合わせて利用している。

教員研修は年３回実施。ICT支援員と一緒に、現状と目的を話し合いながら研修内容を検討した。活用進度に差があったため、原点に戻り基礎から応用までを積み上げて学べる内容で実施している。

※2 ルーブリックとは課題に対する評価基準を示したもの。Google Classroomを利用し、課題ごとに作成したルーブリックを生徒に示すことができる。これにより生徒は評価の観点や基準を事前に知ることができ、授業者からのフィードバックや採点にも活用される。

Teacher's VOICE

初めはハードルを高く感じる先生もいましたが、**活用を進めている先生やICT支援員さんからアイデアをもらうことで、少しずつ活用が広がって**います。各教科や分掌の中で出てきた「こんな使い方をしてみたい」というイメージを具体的な活用方法に落とし込んでもらったり、１人１台端末環境でできることを研修で教えてもらうことで、日々の授業や業務の「あの場面で活用できそう」というアイデアが生まれることもあります。**ICT支援員さんが定期的に来てくれるからこそ、安心してチャレンジできています。**

福岡県立ひびき高等学校

単位制、朝・昼・夜の三部制をとる定時制高校。自分の進路希望や興味関心、学力に合わせ、自分で考え授業を選択する。高度な専門講座や、多彩な学校設定科目も開設する傍ら、「高大等連携事業」も推進し、特色ある教育活動を展開している。

福岡県立八幡高等学校

生徒の意見も取り入れて 授業スタイルを柔軟に変化。

歴史の授業では、時代ごとの担当を班で割り振り、生徒が全体へ説明する学習法を取り入れている。生徒は説明スライドとプレゼン計画書を事前に提出。先生は、質問で理解が足りない部分を掘り出している。

生物の授業ではペアワークを取り入れている。「ウニの発生・カエルの発生」ではそれぞれがエキスパートになり、動画やスライドを用いて教え合う。拡大したり、書き込んだり、各ペアのペースで取り組んでいる。

探究学習では、文系理系を超えた班でプロジェクトを進めている。普段は接点の少ない生徒たちが、放課後にGoogle Meetで繋がり学び合う姿も見られた。リーダーを中心としたチームビルディングも実践している。

Teacher's VOICE

活用が進んでいても、自分のやっていることがベストな方法か分からないこともあります。ICT支援員さんには時折授業を見てもらい相談にのってもらいながら、新しいアイデアを提案してもらうこともあります。苦手意識のある先生ももちろんいますので、初めのころは詳しい教員がフォローしていましたが、ICT支援員さんのおかげで、**教員の負担もかなり減り、全体的に活用が進んでいます。**

福岡県立八幡高等学校

2022年から国の研究指定校となり、教育効果をあげるカリキュラム編成で新しい時代の教育に踏み出す。クラスの枠を超えて挑む探究活動の他、教科科目横断型授業やアクティブラーニングを取り入れながら日々学びをアップデートしている。